

9.4 生物・生態系

9.4.1 現況調査

(1) 調査事項及びその選択理由

調査事項及びその選択理由は、表 9.4-1 に示すとおりである。

表 9.4-1 調査事項及びその選択理由

調査事項	選択理由
①生物の状況 ②生育・生息環境 ③生態系の状況 ④土地利用の状況 ⑤法令等による基準等 ⑥東京都等の計画等の状況	事業の実施に伴い陸上植物の植物相及び植物群落の変化、陸上動物の動物相及び動物群集の変化、生育・生息環境の変化及び生態系の変化が考えられることから、計画地及びその周辺について、左記の事項に係る調査が必要である。

(2) 調査地域

調査地域は、図 9.4-1 に示す計画地及びその周辺とした。

(3) 調査方法

1) 生物の状況

調査は、既存資料調査及び現地調査による方法によった。

ア. 陸上植物の状況

調査方法は、表 9.4-2 に示すとおりである。

表 9.4-2 陸上植物の調査方法

調査事項	調査範囲・地点	調査時期・期間	調査手法
・植物相 ・植物群落	計画地及びその周辺の土地利用状況を踏まえ、会場エリア内とした。 (図 9.4-1 参照)	・植物相 春、初夏、夏、秋の四季とした。 ・植物群落 夏の一季とした。	・植物相 任意観察法 ・植物群落 現地踏査、航空写真の判読及び既存資料の整理により、植生図を作成した。

イ. 陸上動物の状況

調査方法は、表 9.4-3 に示すとおりである。

表 9.4-3 陸上動物の調査方法

調査事項	調査範囲・地点	調査時期・期間	調査手法
・哺乳類 ・鳥類 ・両生類・は虫類 ・昆虫類 ・クモ類	計画地及びその周辺の土地利用状況を踏まえ、会場エリア内及び以下の地点とした。 (図 9.4-1 参照) ・哺乳類 1 地点とした。 ・鳥類 2 定点、1 ラインとした。 ・昆虫類(トラップ) 1 地点とした。	・哺乳類 春、夏、秋、冬の四季とした。 ・鳥類 春、初夏、夏、秋、冬の五季とした。 ・両生類・は虫類 春、初夏、夏、秋、冬の五季とした。 ・昆虫類 春、初夏、夏、秋の四季とした。 ・クモ類 春、初夏、夏、秋の四季とした。	・哺乳類 任意観察法、トラップ法、夜間調査(バットディテクター)による。 ・鳥類 任意観察法、定点観察法、ラインセンサス法による。 ・両生類・は虫類 任意観察法による。 ・昆虫類 任意観察法、ベイトトラップ法、ライトトラップ法による。 ・クモ類 任意観察法による。



図 9.4-1 生物・生態系調査地点

出典：NTT 空間基盤情報

2) 生育・生息環境

ア. 地形等の状況

調査は、「地形図」(国土地理院)、「土地条件図」(平成 25 年 8 月 国土地理院)の既存資料の整理によった。

イ. 植生等の状況

調査は、「自然環境保全基礎調査 植生調査」(平成 11 年～ 環境省自然環境局生物多様性センター)の既存資料の整理によった。また、現地調査により、会場エリア内の植生の状況を確認した。調査は、平成 26 年 7 月 31 日、8 月 1 日に実施した。

ウ. 大気環境

調査は、アメダス府中観測所の気象データ及び計画地周辺に位置する一般環境大気測定局における調査結果を整理・解析した。

エ. 地域社会とのつながり

調査は、当該地域の利用状況において、動植物の生育・生息環境の有する機能との関わりの整理によった。

3) 生態系の状況

調査は、現地調査により確認された動植物の生物相互の関わりの整理によった。

4) 土地利用の状況

調査は、「東京の土地利用 平成 24 年多摩・島しょ地域」(平成 26 年 5 月 東京都都市整備局)、「調布市都市計画図」(平成 25 年 3 月 調布市)等の既存資料の整理によった。

5) 法令等による基準等

調査は、文化財保護法(昭和 25 年法律第 214 号)、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成 4 年法律第 75 号)、鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律(平成 14 年法律第 88 号)等の法令の整理によった。

6) 東京都等の計画等の状況

調査は、「第 11 次鳥獣保護事業計画」(平成 24 年 3 月 東京都)、「植栽時における在来種選定ガイドライン」(平成 26 年 5 月 東京都)の計画等の整理によった。

(4) 調査期間

陸上動植物の現地調査は、表 9.4-4 に示す時期に実施した。

表 9.4-4 調査時期

調査地域	調査項目		調査時期
武蔵野の森総合スポーツ施設、東京スタジアム、武蔵野の森公園	陸上植物の状況	植物相	春季 : 平成 26 年 5 月 2 日 初夏季 : 平成 26 年 5 月 19 日 夏季 : 平成 26 年 7 月 31 日、8 月 1 日、12 日 秋季 : 平成 26 年 10 月 8 日
		植物群落	夏季 : 平成 26 年 7 月 31 日、8 月 1 日
	陸上動物の状況	哺乳類	秋季 : 平成 25 年 11 月 25 日、26 日 冬季 : 平成 26 年 1 月 22 日、23 日 春季 : 平成 26 年 5 月 12 日、19~20 日 夏季 : 平成 26 年 8 月 12 日、13 日
		鳥類	秋季 : 平成 25 年 11 月 25 日 冬季 : 平成 26 年 1 月 23 日 春季 : 平成 26 年 5 月 1 日 初夏季 : 平成 26 年 6 月 4 日 夏季 : 平成 26 年 8 月 8 日 秋季 : 平成 26 年 9 月 26 日
		は虫類	秋季 : 平成 25 年 11 月 25 日 冬季 : 平成 26 年 1 月 23 日 春季 : 平成 26 年 5 月 12 日、19 日 初夏季 : 平成 26 年 6 月 23 日 夏季 : 平成 26 年 8 月 12 日、13 日
		両生類	秋季 : 平成 25 年 11 月 25 日 冬季 : 平成 26 年 1 月 23 日 春季 : 平成 26 年 5 月 12, 19 日 初夏季 : 平成 26 年 6 月 23 日 夏季 : 平成 26 年 8 月 12 日、13 日
		昆虫類	秋季 : 平成 25 年 11 月 25 日、26 日 春季 : 平成 26 年 5 月 19~20 日、23 日 初夏季 : 平成 26 年 6 月 26~27 日 夏季 : 平成 26 年 8 月 14 日、15 日 秋季 : 平成 26 年 10 月 9、10 日
		クモ類	秋季 : 平成 25 年 11 月 25 日 春季 : 平成 26 年 5 月 19~20 日、23 日 初夏季 : 平成 26 年 6 月 26~27 日 夏季 : 平成 26 年 8 月 14 日、15 日 秋季 : 平成 26 年 10 月 9 日、10 日

(5) 調査結果

1) 生物の状況

ア. 陸上植物の状況

(ア) 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.4-5(1)～(7)に示すとおり 112 科 494 種の植物が確認された。

計画地及びその周辺は、東京スタジアム（味の素スタジアム）及び西競技場の敷地内であり、確認種は主に敷地内に植栽された種であった。

表 9.4-5(1) 植物確認種

No.	科名	和名
1	トクサ科	スギナ
2	ハナヤスリ科	フユノハナワラビ
3	ゼンマイ科	ゼンマイ
4	フサシダ科	カニクサ
5	ミズワラビ科	タチシノブ
6	イノモトソウ科	イノモトソウ
7	オシダ科	オニヤブソテツ
-		<i>Cyrtomium</i> 属
8	ヒメシダ科	ホシダ
9		ミドリヒメワラビ
10	メシダ科	イヌワラビ
11	イチョウ科	イチョウ
12	マツ科	ウラジロモミ
13		ヒマラヤスギ
14		アカマツ
15		ヒメコマツ
16		クロマツ
17	スギ科	メタセコイヤ
18	ヒノキ科	ヒノキ
19		オウゴンクジャクヒバ
20		サワラ
21		カイツカイブキ
-		<i>Juniperus</i> 属
22		ニオイヒバ
23		ヨーロッパゴールド
24		コノテガシワ
25	マキ科	ナギ
26	イチイ科	イチイ
27		キャラボク
28	ヤマモモ科	ヤマモモ
29	ヤナギ科	セイヨウハコヤナギ
30		シダレヤナギ
31		コリヤナギ
32	カバノキ科	アカシデ
33		イヌシデ
34	ブナ科	クリ
35		スダジイ
36		マテバシイ
37		クヌギ
38		ミズナラ
39		カシワ
40		アラカシ
41		シラカシ
42		ウバメガシ
43		コナラ
44	ニレ科	ムクノキ
45		エノキ
46		アキニレ
47		ケヤキ
48	クワ科	ヒメコウゾ
49		クワクサ
50		イヌビワ
51		カナムグラ
52		ヤマグワ
53	ビャクダン科	カナビキソウ
54	タデ科	ミズヒキ
55		オオイヌタデ
56		イヌタデ
57		イシミカワ
58		ママコノシリヌグイ
59		ハイミチヤナギ

表 9.4-5(2) 植物確認種

No.	科名	和名
60	タデ科	ミチヤナギ
61		イタドリ
62		スイバ
63		ヒメスイバ
64		アレチギンギシ
65		ナガバギンギシ
66		ギンギシ
67	エゾノギンギシ	
68	ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ
69	ザクロソウ科	ザクロソウ
70	スベリヒユ科	スベリヒユ
71	ナデシコ科	ノミノツヅリ
72		オランダミミナグサ
73		ミミナグサ
74		ツメクサ
75		ノミノフスマ
76		ウシハコベ
77		コハコベ
78	ミドリハコベ	
79	アカザ科	シロザ
80	アカザ科	アリタソウ
81		コアカザ
82	ヒユ科	ヒカゲイノコズチ
83		ヒナタイノコズチ
84		ヤナギイノコズチ
85	ホナガイヌビユ	
86	モクレン科	ユリノキ
87		タイサンボク
88		モクレン
89		コブシ
90	カラタネオガタマ	
91	マツブサ科	サネカズラ
92	クスノキ科	クスノキ
93		ヤブニッケイ
94		ヤマコウバシ
95		ダンコウバイ
96		クロモジ
97		タブノキ
98		シロダモ
99	カツラ科	カツラ
100	キンポウゲ科	センニンソウ
101		クリスマスローズ
102		ケキツネノボタン
103	メギ科	メギ
104		ホソバヒイラギナンテン
105		ヒイラギナンテン
106		ナンテン
107	アケビ科	アケビ
108		ゴヨウアケビ
109	ドクダミ科	ドクダミ
110	ツバキ科	カンツバキ
111		ヤブツバキ
112		サザンカ
113		ハマヒサカキ
114		ヒサカキ
115		ナツツバキ
116		モッコク
117	オトギリソウ科	ビヨウヤナギ
118		オトギリソウ
119		コケオトギリ
120	ケシ科	ムラサキケマン
121		タケニグサ
122		ナガミヒナゲシ
123	アブラナ科	ナズナ
124		ミチタネツケバナ
125		マメグンバイナズナ
126		イヌガラシ
127	スズカケノキ科	アメリカスズカケノキ
128	マンサク科	マンサク
129		トキワマンサク
130	ユキノシタ科	ウツギ
131		ヒメウツギ
132		アジサイ
133		ガクアジサイ
134		ノリウツギ
135		バイカウツギ
136	トベラ科	トベラ
137	バラ科	ザイフリボク
138		ボケ
139		ヘビイチゴ
140		ビワ
141		ヤマブキ

表 9.4-5(3) 植物確認種

No.	科名	和名	
142	バラ科	ヤエヤマブキ	
143		<i>Malus</i> 属	
144		カナメモチ	
145		レッドロビン	
146		カマツカ	
147		シダレザクラ	
148		ヤマザクラ	
149		サトザクラ	
150		オオシマザクラ	
151		ウメ	
152		モモ	
153		ソメイヨシノ	
154		カザンデマリ	
155		シャリンバイ	
156		ノイバラ	
157		テリハノイバラ	
158		クサイチゴ	
159		ニガイチゴ	
160		ナワシロイチゴ	
161		カジイチゴ	
162		コデマリ	
163		シモツケ	
164		トサシモツケ	
165		ユキヤナギ	
166		マメ科	ネムノキ
167			イタチハギ
168			ヤブマメ
169			カワラケツメイ
170			ハナズオウ
171			アレチヌスビトハギ
172			ツルマメ
173			コマツナギ
174			ヤハズソウ
175			メドハギ
176			ハイメドハギ
177	ニシキハギ		
178	ネコハギ		
179	ミヤギノハギ		
180	マキエハギ		
181	クズ		
182	ハリエンジュ		
183	トゲナシハリエンジュ		
184	エンジュ		
185	コマツツメクサ		
186	ムラサキツメクサ		
187	シロツメクサ		
188	ヤハズエンドウ		
189	スズメノエンドウ		
190	ヤブツルアズキ		
191	フジ		
192	カタバミ科	イモカタバミ	
193		ハナカタバミ	
194		カタバミ	
195		アカカタバミ	
196		ムラサキカタバミ	
197		オッタチカタバミ	
198		フウロソウ科	アメリカフウロ
199		ゲンノショウコ	
200	トウダイグサ科	エノキグサ	
201		トウダイグサ	
202		オオニシキソウ	
203		ニシキソウ	
204		コニシキソウ	
205		アカメガシワ	
206		ヒメミカンソウ	
207		ナンキンハゼ	
208	ユズリハ科	ユズリハ	
209	ミカン科	カラスザンショウ	
210		イヌザンショウ	
211	ニガキ科	シンジュ	
212	センダン科	センダン	
213	ウルシ科	ヌルデ	
214		ヤマウルシ	
215	カエデ科	トウカエデ	
216		トネリコバノカエデ	
217		メグスリノキ	
218		イロハモミジ	
219		オオイタヤメイゲツ	
220	ムクロジ科	モクゲンジ	
221	トチノキ科	<i>Aesculus</i> 属	
222	アワブキ科	アワブキ	
223	モチノキ科	イヌツゲ	

表 9.4-5(4) 植物確認種

No.	科名	和名
224	モチノキ科	モチノキ
225		アオハダ
226		ソヨゴ
227		ウメモドキ
228	ニシキギ科	ツルウメモドキ
229		ニシキギ
230		コマユミ
231		マサキ
232		マユミ
233	ミツバウツギ科	ゴンズイ
234		ミツバウツギ
235	ブドウ科	ノブドウ
236		ヤブガラシ
237		ツタ
238		エビヅル
239		シナノキ科
240		ボダイジュ
241	アオイ科	ムクゲ
242	ジンチョウゲ科	ジンチョウゲ
243		ミツマタ
244	グミ科	ツルグミ
245	スマレ科	タチツボスマレ
246		ツボスマレ
247	キブシ科	キブシ
248	ウリ科	スズメウリ
249		カラスウリ
250	ミソハギ科	サルスベリ
251	フトモモ科	フェイジョア
252		ギンバイカ
253	アカバナ科	メマツヨイグサ
254		コマツヨイグサ
255		ユウゲショウ
256	ミズキ科	アオキ
257		アメリカヤマボウシ
258		ヤマボウシ
259		ミズキ
260		クマノミズキ
261	ウコギ科	コシアブラ
262		カクレミノ
263		ヤツデ
264		セイヨウキツタ
265		キツタ
266	セリ科	オオバチドメ
267		ノチドメ
268		オオチドメ
269		ヒメチドメ
270		オヤブジラミ
271	リョウブ科	リョウブ
272	ツツジ科	ドウダンツツジ
273		ジャノメエリカ
274		アメリカイワナンテン
275		ネジキ
276		アセビ
277		ムラサキヤシオ
278		サツキ
279		ヤマツツジ
280		オオムラサキ
281		ナツハゼ
282		ヤブコウジ科
283	サクラソウ科	オカトラノオ
284		ヌマトラノオ
285		コナスビ
286	エゴノキ科	エゴノキ
287		ハクウンボク
288	ハイノキ科	サワフタギ
289	モクセイ科	シナレンギョウ
290		ヤマトアオダモ
291		ネズミモチ
292		トウネズミモチ
293		イボタノキ
294		オリーブ
295		キンモクセイ
296		ヒイラギ
297		ヒイラギモクセイ
298		ムラサキハシドイ
299	キョウチクトウ科	キョウチクトウ
300		テイカカズラ
301	ガガイモ科	ガガイモ
302	アカネ科	ヒメヨツバムグラ
303		ヤエムグラ
304		クチナシ
305		コクチナシ

表 9.4-5(5) 植物確認種

No.	科名	和名
306	アカネ科	ハシカグサ
307		ヘクソカズラ
308		アカネ
309		ハクチョウゲ
310		ハナヤエムグラ
311	ヒルガオ科	コヒルガオ
312		ヒルガオ
313		マメアサガオ
314	ムラサキ科	キュウリグサ
315	クマツツラ科	コムラサキ
316		ムラサキシキブ
317		シチヘンゲ
318	シソ科	キランソウ
319		カキドオシ
320		ホトケノザ
321		ヒメオドリコソウ
322		イヌコウジュ
323		アオジソ
324		ウツボグサ
325	ナス科	ワルナスビ
326		ヒヨドリジョウゴ
327		アメリカイヌホオズキ
328	フジウツギ科	フサフジウツギ
329	ゴマノハグサ科	マツバウンラン
330		ウリクサ
331		アゼナ
332		ムラサキサギゴケ
333		トキワハゼ
334		タチイヌノフグリ
335		ムシクサ
336		オオイヌノフグリ
337	ノウゼンカズラ科	ノウゼンカズラ
338	キツネノマゴ科	キツネノマゴ
339	ハマウツボ科	ヤセウツボ
340	オオバコ科	オオバコ
341		ヘラオオバコ
342		タチオオバコ
343	スイカズラ科	ハナツクバネウツギ
344		スイカズラ
345		ニワトコ
346		ガマズミ
347		サンゴジュ
348		タニウツギ
349	キキョウ科	キキョウソウ
350	キク科	ブタクサ
351		オオブタクサ
352		ヨモギ
353		ヒロハホウキギク
354		コセンダングサ
355		トキンソウ
356		アメリカオニアザミ
357		アレチノギク
358		オオアレチノギク
359		コスモス
360		マメカミツレ
361		ベニバナボロギク
362		アメリカタカサブロウ
363		ダンドボロギク
364		ヒメムカシヨモギ
365		ハルジオン
366		ハキダメギク
367		ハハコグサ
368		タチチコグサ
369		チチコグサ
370		チチコグサモドキ
371		ウスベニチコグサ
372		ウラジロチチコグサ
373		ククイモ
374		キツネアザミ
375		ブタナ
376		オオヂシバリ
377		イワニガナ
378		アキノノゲシ
379		ヤブタヒラコ
380		フキ
381		コウゾリナ
382		ノボロギク
383		セイタカアワダチソウ
384		オニノゲシ
385		ノゲシ
386		ヒメジョオン
387	ヤナギバヒメジョオン	

表 9.4-5(6) 植物確認種

No.	科名	和名
388	キク科	アカミタンポポ
389		セイヨウタンポポ
390		アイノコセイヨウタンポポ
391		カントウタンポポ
392		オニタビラコ
393	ユリ科	ノビル
394		ヒメヤブラン
395		ヤブラン
396		ジャノヒゲ
397		ナガバジャノヒゲ
398		オオバジャノヒゲ
399		ホソバオオアマナ
400		キチジョウソウ
401		オモト
402		ヒガンバナ科
403	ヤマノイモ科	ナガイモ
404		ヤマノイモ
405		オニドコロ
406	アヤメ科	シャガ
407		ニワゼキショウ
408		アイイロニワゼキショウ
409		オオニワゼキショウ
410	イグサ科	クサイ
411		スズメノヤリ
412	ツユクサ科	ツユクサ
413		ヤブミョウガ
414	イネ科	アオカモジグサ
415		カモジグサ
416		コヌカグサ
417		ヌカボ
418		メリケンカルカヤ
419		ハルガヤ
420		コブナグサ
421		トダシバ
422		コバンソウ
423		イヌムギ
424		スズメノチャヒキ
425		ヒゲナガスズメノチャヒキ
426		ギョウギシバ
427		カモガヤ
428		メヒシバ
429		コメヒシバ
430		アキメヒシバ
431		イヌビエ
432		ヒメイヌビエ
433		オヒシバ
434		シナダレスズメガヤ
435		カゼクサ
436		ニワホコリ
437		コスズメガヤ
438		チャボウシノシッペイ
439		オニウシノケグサ
440		ウシノシッペイ
441		ケナシチガヤ
442		チガヤ
443		ネズミムギ
444		ヒメアシボソ
445		アシボソ
446		オギ
447		ススキ
448		ネズミガヤ
449		コネズミガヤ
450	ケチヂミザサ	
451	コチヂミザサ	
452	オオクサキビ	
453	シマスズメノヒエ	
454	アメリカスズメノヒエ	
455	チカラシバ	
456	ヨシ	
457	アズマネザサ	
458	スズメノカタビラ	
459	オオイチゴツナギ	
460	ナガハグサ	
461	イチゴツナギ	
462	オオスズメノカタビラ	
463	ウシクサ	
464	アキノエノコログサ	
465	コツブキンエノコロ	
466	キンエノコロ	
467	エノコログサ	
468	ムラサキエノコロ	
469	オカメザサ	

表 9.4-5(7) 植物確認種

No.	科名	和名	
470	イネ科	セイバンモロコシ	
471		ネズミノオ	
472		カニツリグサ	
473		ナギナタガヤ	
474		シバ	
475		コウライシバ	
476	ヤシ科	シュロ	
477	サトイモ科	カラスビシャク	
478	ガマ科	ヒメガマ	
479	カヤツリグサ科	アゼナルコ	
480		マスクサ	
481		アオスゲ	
482		チャガヤツリ	
483		アイダクグ	
484		ヒメクグ	
485		コゴメガヤツリ	
486		セイタカハマスゲ	
487		カヤツリグサ	
488		ハマスゲ	
489		ヒメヒラテンツキ	
490		クロテンツキ	
491		ヒンジガヤツリ	
492		サンカクイ	
493		ラン科	キンラン
494			サイハイラン
計		112 科	494 種

(イ) 注目される植物種

確認された植物のうち、文化財保護法に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動物種、「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 植物 I（維管束植物）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種及び「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）に該当する掲載種を注目される植物種として抽出した結果、表 9.4-6 に示す 8 種が該当した。

注目される植物種の生態及び確認状況は、表 9.4-7 に示すとおりである。

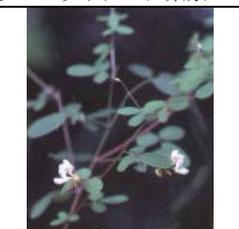
表 9.4-6 注目される植物種

No.	科名	種名	選定基準 ^{注)}			
			①	②	③	④
1	ヒユ科	ヤナギイノコズチ				VU
2	マンサク科	トキワマンサク			EN	
3	マメ科	カワラケツメイ				VU
4		マキエハギ				VU
5	トウダイグサ科	ニシキソウ				NT
6	アカネ科	ハクチョウゲ			EN	
7	カヤツリグサ科	クロテンツキ				EN
8	ラン科	キンラン			VU	VU
計	7 科	8 種	0 種	0 種	3 種	6 種

注) 選定基準

- ①文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）、東京都文化財保護条例（昭和 51 年東京都条例第 25 号）、調布市文化財保護条例（平成 18 年調布市条例第 46 号）に基づく天然記念物
- ②絶滅のおそれのある野生動物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）に基づく国内希少野生動物種
- ③「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 植物 I（維管束植物）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種
EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類
- ④「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）の北多摩に該当する掲載種
EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧

表 9.4-7 注目される植物の生態及び確認状況

<p>【種名】：ヤナギイノコズチ 【分布】：本州（関東地方以西）～九州、中国（本土・台湾）に分布する。 【形態】：山地の木陰にはえる多年草で、花期は8～9月。 【確認状況】：計画地周辺の林床における2地点で各1個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータ東京 2013」</p>
<p>【種名】：トキワマンサク 【分布】：静岡県・三重県・熊本県の常緑樹林内にまれにはえ、台湾・中国大陸中南部・ヒマラヤ東部に分布する。 【形態】：常緑小高木で、花期は4月末～5月。 【確認状況】：計画地周辺の園路脇の2地点で各1個体が確認された。</p>	 <p>出典：「日本の野生植物 木本Ⅰ」</p>
<p>【種名】：カワラケツメイ 【分布】：本州・四国・九州、朝鮮・中国（東部・東北）に分布する。 【形態】：日当たりのよい川原、土手、道ばたなどの草地でみられる1年草またはまれに多年草で、花期は8～10月。 【確認状況】：計画地周辺の石垣の上面の隙間に20個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータ東京 2013」</p>
<p>【種名】：マキエハギ 【分布】：本州～琉球、朝鮮・中国（本土・台湾）に分布する。 【形態】：丘陵地や低山地の日当たりのよい乾いた道ばたや岩地などの草原にはえる半低木で、花期は8～9月。 【確認状況】：計画地周辺の林床の林縁部で5個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータ東京 2013」</p>
<p>【種名】：ニシキソウ 【分布】：本州～九州、東アジアからヨーロッパにかけて温帯に広く分布する。 【形態】：畑地や路傍にふつうにみられる1年生の雑草で、花期は6～9月。 【確認状況】：計画地周辺の林床の林縁部で5個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータ東京 2013」</p>
<p>【種名】：ハクチョウゲ 【分布】：中国原産でよく栽培され、長崎県では野生化している。 【形態】：常緑小低木で、花期は5～7月。 【確認状況】：計画地周辺の駐車場、歩道脇で確認された。</p>	 <p>出典：「日本の野生植物 木本Ⅱ」</p>
<p>【種名】：クロテンツキ 【分布】：本州（関東・佐渡以西）～琉球、朝鮮・中国に分布する。 【形態】：平地から山地にはえるテンツキに似ており、8～10月に熟す。 【確認状況】：計画地周辺の池の淵に点在している個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータ東京 2013」</p>
<p>【種名】：キンラン 【分布】：本州～九州、朝鮮・中国に分布する。 【形態】：山や丘陵地の疎林下にはえ、花期は4～6月。 【確認状況】：計画地周辺の林床で3個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータ東京 2013」</p>

注) 分布及び形態は、「日本の野生植物 木本Ⅰ」（平成元年2月（株）平凡社）、「日本の野生植物 木本Ⅱ」（平成元年2月（株）平凡社）、「日本の野生植物 草本Ⅰ」（昭和57年1月（株）平凡社）、「日本の野生植物 草本Ⅱ」（昭和57年3月（株）平凡社）、「日本の野生植物 草本Ⅲ」（昭和56年10月（株）平凡社）による。

(ウ) 植物群落

植生調査結果を基に計画地及びその周辺に分布する植物群落等を区分した結果、表 9.4-8 に示すとおり草本群落が 6 区分、低木群落 が 1 区分、木本群落 が 5 区分、公園・グラウンド等のその他区分が 5 区分、計 17 区分に分類された。

表 9.4-8 植生区分

植生区分	群落名	概要
多年生草本群落	ヨモギ-メドハギ群落	ヨモギやメドハギが優占するほか、ムラサキツメクサ、セイタカアワダチソウ、ヤナギハナガサ、チガヤ、ギョウギンバ等が混生する。
単子葉草本群落	ヨシ群落	ヨシが優占するほか、ガマやヒメガマが混生する。
	オギ群落	オギが優占するほか、セイタカアワダチソウ、ヨモギ、クズ等が混生する。
	ヒメガマ群落	ヒメガマが優占する高茎草本群落。
単子葉草本群落	シバ群落	シバが優占する低茎草本群落で、シロツメクサやオオバコ、ヘラオオバコ、ヒメチドメ等が混生する。
	チガヤ群落	チガヤが優占するほか、セイタカアワダチソウ、ヨモギ、ムラサキツメクサ、ヤブガラシ等が混生する。
低木群落	オカメザサ群落	オカメザサが植栽されている。
木本群落	植栽樹林群（常緑広葉）	スタジイやマテバシイ、クスノキ等の常緑広葉樹が優占する植栽樹群。
	植栽樹林群（落葉広葉）	ケヤキやトウカエデ等の落葉広葉樹が優占する植栽樹群。
	植栽樹林群（常緑針葉）	クロマツやカイツカイブキ、ソテツ等の常緑針葉樹が優占する植栽樹群。
	植栽樹林群（落葉針葉）	ラクウショウやメタセコイア、イチヨウ等の落葉針葉樹が優占する植栽樹群。
	植栽樹林群（混交）	各種の樹木が混生して優占種が判別できない植栽樹群。
その他	公園・グラウンド	土地利用が小規模な児童公園やグラウンドのもの。
	人工裸地	土地被覆が人工裸地のもの。
	人工構造物	土地利用が建築物等のもの。
	道路	土地利用が道路のもの。
	開放水面	河川、池等の水面。

イ. 陸上動物の状況

(ア) 哺乳類

a. 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.4-9 に示すとおり 2 目 2 科 2 種の哺乳類が確認された。

計画地周辺の公園の草地や植栽箇所の林床でアズマモグラの痕跡が確認され、夜間調査でヒナコウモリ科の飛翔が確認された。

表 9.4-9 哺乳類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況			
				秋季	冬季	春季	夏季
1	モグラ目	モグラ科	アズマモグラ	○	○	○	○
2	コウモリ目	ヒナコウモリ科	ヒナコウモリ科			○	○
計	2 目	2 科	2 種	1 種	1 種	2 種	2 種

b. 注目される種

確認された哺乳類のうち、文化財保護法に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種、「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト ほ乳類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種及び「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）に該当する掲載種は該当しなかった。

(イ) 鳥類

a. 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.4-10 に示すとおり 14 目 28 科 39 種の鳥類が確認された。

確認された鳥類は、陸鳥ではコゲラ、オナガ、シジュウカラ、メジロ等の樹林性の種、ヒバリ、セッカ等の草地性の種が確認された。水鳥ではカルガモ、カイツブリ、バン等が武蔵野の森公園内の池で確認された。また、外来種であるホンセイインコも確認された。

確認された種は大部分が留鳥であるが、ツバメ、イワツバメといった夏鳥も確認された。繁殖が確認された種としては、カイツブリ、ヒメアマツバメ、ヒバリの 3 種が確認された。

表 9.4-10 鳥類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況					
				H25 年度		平成 26 年度			
				秋季	冬季	春季	夏季	初夏季	秋季
1	カモ目	カモ科	ヒドリガモ	○	○				
2			カルガモ			○	○	○	○
3	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	○		○		○	
4	ハト目	ハト科	キジバト	○	○	○	○	○	○
5	カツオドリ目	ウ科	カワウ			○			
6	ペリカン目	サギ科	ダイサギ						○
7	ツル目	クイナ科	バン		○	○	○	○	
8	アマツバメ目	アマツバメ科	ヒメアマツバメ	○		○	○	○	○
9	チドリ目	チドリ科	コチドリ					○	
10	タカ目	タカ科	オオタカ		○			○	
11	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ	○	○	○		○	○
12	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	○					
13	スズメ目	モズ科	モズ	○	○				○
14		カラス科	オナガ	○		○	○	○	○
15			ハシボソガラス	○	○			○	
16			ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○
17		シジュウカラ科	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○
18		ヒバリ科	ヒバリ	○		○	○	○	
19		ツバメ科	ツバメ			○	○	○	
20			イワツバメ						○
21		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○
22		エナガ科	エナガ	○					
23		メジロ科	メジロ	○	○	○	○	○	○
24		セッカ科	セッカ				○	○	
25		ムクドリ科	ムクドリ	○	○	○	○	○	○
26		ヒタキ科	シロハラ	○					
27			アカハラ	○					
28			ツグミ	○	○				
29			ジョウビタキ	○	○				
30		スズメ科	スズメ	○	○	○	○	○	○
31		セキレイ科	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○
32			タヒバリ	○	○				
33		アトリ科	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○
34			シメ	○	○				
35		ホオジロ科	ホオジロ	○		○	○	○	
36			カシラダカ	○					
37			アオジ	○	○				
38		ハト目	ハト科	カワラバト	○	○		○	
39		インコ目	インコ科	ホンセイインコ	○				○
計	14 目	28 科	39 種	30 種	21 種	19 種	18 種	24 種	17 種

b. 注目される種

確認された鳥類のうち、文化財保護法に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種、「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 鳥類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種及び「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）に該当する掲載種を注目される鳥類として抽出した結果、表 9.4-11 に示す 10 種が該当した。

注目される鳥類の生態及び確認状況は、表 9.4-12(1)及び(2)に示すとおりである。

表 9.4-11 注目される鳥類

No.	目名	科名	種名	選定基準 ^{注)}			
				①	②	③	④
1	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ				NT
2	ペリカン目	サギ科	ダイサギ				NT
3	ツル目	クイナ科	バン				VU
4	アマツバメ目	アマツバメ科	ヒメアマツバメ				NT
5	チドリ目	チドリ科	コチドリ				VU
6	タカ目	タカ科	オオタカ		○	NT	EN
7	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ				VU
8	スズメ目	モズ科	モズ				VU
9		ヒバリ科	ヒバリ				VU
10		エナガ科	エナガ				NT
計	8 目	10 科	10 種	0 種	1 種	1 種	10 種

注)選定基準

- ①文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）、東京都文化財保護条例（昭和 51 年東京都条例第 25 号）、調布市文化財保護条例（平成 18 年調布市条例第 46 号）に基づく天然記念物
- ②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）に基づく国内希少野生動植物種
- ③「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 鳥類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種
NT: 準絶滅危惧
- ④「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）の北多摩に該当する掲載種
EN: 絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類 NT: 準絶滅危惧

表 9.4-12(1) 注目される鳥類の生態及び確認状況

<p>【種名】：カイツブリ</p> <p>【分布】：北海道では夏鳥。本州、四国、九州、南西諸島では留鳥。</p> <p>【形態】：池、湖沼、河川などに生息し、主に開けた水面周辺の水草やヨシに水草を積み重ねて巣を作る。水中に潜って魚類、甲殻類、昆虫類等を捕食する。</p> <p>【確認状況】：春季に計画地周辺の公園内の草地で鳴き声が、初夏に計画地周辺の公園内の池水面で成鳥及び幼鳥が、秋季に計画地周辺の公園内の池水面で採餌する個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：ダイサギ</p> <p>【分布】：本州では漂鳥。四国、九州では留鳥。南西諸島では冬鳥。</p> <p>【形態】：水田、湿地、河川、湖沼、池、河口、干潟などの浅い水域で採食し、魚類や甲殻類、カエル類、昆虫類などを食べる。</p> <p>【確認状況】：秋季に計画地周辺の公園内の池のヨシ原で1例1個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：バン</p> <p>【分布】：北海道、本州（東北）では夏鳥。本州（関東以西）、四国、九州、南西諸島では留鳥。</p> <p>【形態】：湖沼、池、河川、湿地に生息し、植物の種子や昆虫類、貝類、ミミズ類などを食べる。</p> <p>【確認状況】：秋季を除く全季に計画地周辺の公園内の池で個体が、春季に公園内の草地で鳴き声が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：ヒメアマツバメ</p> <p>【分布】：本州（関東南部以西）、四国、九州で留鳥。</p> <p>【形態】：主に平地から低山地の開けた場所に生息し、飛翔性昆虫類を食べる。コンクリートの建築物などで営巣する。イワツバメの巣を利用することが多い。</p> <p>【確認状況】：冬季を除く全季に上空を飛翔する個体が確認された。また、計画地周辺の人工構造物に巣が確認され、初夏には営巣も確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：コチドリ</p> <p>【分布】：北海道、本州、四国、九州では夏鳥。南西諸島では冬鳥。</p> <p>【形態】：河川敷、海岸の砂州、造成地などの草の少ない砂礫地で繁殖する。主に小型のカニや底生動物、昆虫類を食べる。</p> <p>【確認状況】：初夏に計画地周辺の調布飛行場の草地で鳴き声が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：オオタカ</p> <p>【分布】：北海道、本州、四国、九州で留鳥または漂鳥。</p> <p>【形態】：平地から山地の樹林に生息し、繁殖する。ハト類やカモ類など主に中型の鳥類を食べる。</p> <p>【確認状況】：初夏及び冬季に計画地周辺の公園上空で飛翔する個体が確認されたが、計画地及びその周辺での営巣は確認されなかった。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>

注) 分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013 (本土部)」(平成 25 年 3 月 東京都) による。

表 9.4-12(2) 注目される鳥類の生態及び確認状況

<p>【種名】：チョウゲンボウ</p> <p>【分布】：北海道、本州（中部以東）では留鳥または漂鳥。本州（中部以西）、四国、九州、南西諸島では冬鳥。</p> <p>【形態】：平地から山地の崖のほか、橋脚や煙突などの人工建造物で繁殖する。ネズミ類や小鳥、昆虫類を食べる。</p> <p>【確認状況】：秋季に計画地周辺の公園上空で飛翔する個体が確認されたが、計画地及びその周辺での営巣は確認されなかった。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：モズ</p> <p>【分布】：北海道、本州、四国、九州では留鳥または漂鳥。南西諸島では冬鳥。</p> <p>【形態】：平地から山地の疎林、耕作地、河畔林、公園などに生息し、昆虫類やミミズ類、両生・は虫類などを食べる。</p> <p>【確認状況】：秋季及び冬季に計画地周辺の広葉樹林や草地で採餌する個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：ヒバリ</p> <p>【分布】：北海道では夏鳥。本州では留鳥または漂鳥。四国、九州では留鳥。</p> <p>【形態】：草地、耕作地などに生息し、植物の種子や昆虫類などを食べる。</p> <p>【確認状況】：冬季を除く全季に計画地周辺の公園上空や調布飛行場敷地内で飛翔する個体が確認された。また、初夏には巣が確認され、雛も確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>
<p>【種名】：エナガ</p> <p>【分布】：北海道、本州、四国、九州で留鳥。</p> <p>【形態】：平地から山地の樹林などに生息し、昆虫類やクモ類を食べる。</p> <p>【確認状況】：秋季に計画地周辺の広葉樹で採餌する個体が確認された。</p>	 <p>出典：「レッドデータブック東京 2013」</p>

注)分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）による。

(ウ) は虫類

a. 確認種

現地調査により、は虫類は確認されなかった。

b. 注目される種

現地調査により、は虫類の注目される種は確認されなかった。

(エ) 両生類

a. 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.4-13 に示すとおり 1 目 1 科 1 種の両生類が確認された。特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（平成 16 年法律第 78 号）に基づき特定外来生物に指定されているウシガエルが確認された。

表 9.4-13 両生類確認種

No	目名	科名	種名	確認状況				
				秋季	冬季	春季	初夏	夏季
1	カエル目	アカガエル科	ウシガエル			○	○	○
計	1 目	1 科	1 種	0 種	0 種	1 種	1 種	1 種

b. 注目される種

現地調査により、両生類の注目される種は確認されなかった。

(オ) 昆虫類

a. 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.4-14(1)～(5)に示すとおり 11 目 114 科 374 種の昆虫類が確認された。

確認された昆虫類は、主にシバズ、ウスモンミドリカスミカメ、ハリカメムシ、モンキチョウ、ナミテントウ、ヒメハラナガツチバチ等の草地性の種のほか、カネタタキ、オオモンシロナガカメムシ、エサキモンキツノカメムシ、ゴマダラチョウ、ヒレルクチブトゾウムシ、アカアシノミゾウムシ等の樹林性の種も確認された。また、コルリアトキリゴミムシ、クモガタテントウ等の外来種も確認された。

表 9.4-14(1) 昆虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況						
				平成 25 年度	平成 26 年度					
				秋季	春季	初夏季	夏季	秋季		
1	トンボ目(蜻蛉目)	イトトンボ科	アシアイトトンボ			○				
2			アオモンイトトンボ		○		○			
3		ヤンマ科	ギンヤンマ			○				
4		エゾイトトンボ科	オオヤマトンボ				○			
5		トンボ科	ショウジョウトンボ		○	○	○			
6			コフキトンボ		○	○				
7			シオカイトンボ		○	○	○			
8			ウスハキトンボ				○	○		
9			コシアキトンボ			○	○			
10			チョウトンボ			○	○			
11			ナツアカネ	○						
12			アキアカネ					○		
13	コキブリ目(網翅目)	チャバネコキブリ科	モリチャバネコキブリ	○	○		○	○		
14	カマキリ目(螳螂目)	カマキリ科	オオカマキリ				○			
15	ハサミ目(革翅目)	マルハサミ科	ハマハサミ			○				
16			キアサハサミ		○	○				
17			ヒゲシロハサミ		○					
18	ハチ目(直翅目)	ツユムシ科	ツユムシ			○				
19		キリギリス科	ホシササキ						○	
20			ヒメキス			○				
21			ヒカシキギリス							
22		マツムシ科	アオマツムシ				○	○		
23		コロロギ科	ハラオホコロロギ						○	
24			エンマココロロギ						○	
25			ツツレサセコロロギ	○					○	
26		カネタタキ科	カネタタキ	○					○	
27		ヒバリモドキ科	マダラス					○		
28			シハス	○						
29		ハツタ科	ショウリョウハツタ				○	○		
30			ヒナハツタ			○	○			
31			ショウリョウハツタモドキ					○		
32			クルマハツタモドキ					○		
33			イナコ科	ハネカイナコ				○		
34			オンハツタ科	オンハツタ				○	○	
35		ヒシハツタ科	ハラヒシハツタ		○		○			
36	カメシ目(半翅目)	ウンカ科	コマウンカ				○	○		
37			ヒメトビウンカ					○		
38			セシロウンカ					○		
39			テフウチウンカ						○	
40			コフウンカ			○		○		
41		テングスケバ科	テングスケバ					○		
42		アオハハコモモ科	トビイロハコモモ					○	○	
43		マルウンカ科	クサビウンカ				○			
44		ハコモモ科	ベッコウハコモモ					○		
45		ゲンバイウンカ科	ヒラタゲンバイウンカ					○	○	
46		セミ科	クマゼミ					○		
47			アフリゼミ					○		
48			ツツクホウシ					○		
49			ミンシゼミ					○		
50			ニイゼミ					○		
51			アワキムシ科	ハマアワキ					○	○
52		トゲアワキムシ科	ムネアワキ		○					
53		ヨコバエ科	スズキメヨコバエ	○						
54			アカスリヨコバエ	○						
55			ツマクオオヨコバエ	○	○				○	
56			オオヨコバエ			○			○	○
57			トカリヨコバエ			○			○	○
58			クロミヤクイモシヨコバエ						○	○
59			サシヨコバエ						○	
60			アラヒシモンヨコバエ				○			
61			ミスジトカリヨコバエ				○		○	
62			ホシヒメヨコバエ	○						
63	<i>Oncopsis</i> 属		○							
64	リンコマダラヨコバエ		○							
65	<i>Pagaronia</i> 属				○					
66	シロミヤクイモシヨコバエ							○		
67	クロサシヨコバエ						○			
68	マダラヨコバエ				○	○	○	○		
69	クロサシホリサシヨコバエ						○			
70	ホシヨコバエ						○			
71	サシガメ科	シマサシガメ		○	○	○				
72	ゲンバイムシ科	ウチリゲンバイ					○			
73		アワダチリゲンバイ			○	○	○	○		
74		ツツジゲンバイ			○		○			
75	ハナカメシ科	ナミヒメハナカメシ			○					
76	カスミカメシ科	ナカゲロカスミカメ		○			○			
77		ツマクオオカスミカメ						○		
78		<i>Campylomma</i> 属	○							
79		ハキメンカスミカメ						○	○	
80		ヒョウタンカスミカメ				○				

表 9.4-14(2) 昆虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況						
				平成 25 年度	平成 26 年度					
				秋季	春季	初夏季	夏季	秋季		
81	カメシ目(半翅目)	カスミカメシ科	グンバ ¹ イカシカメ					○		
82			ウスモンミト ¹ リカシカメ	○						
83			イネホシミト ¹ リカシカメ		○	○	○	○		
84		マキバ ¹ サシカ ¹ メ科	ハネナカ ¹ マキバ ¹ サシカ ¹ メ			○	○	○		
85			クロホシカメシ				○			
86		ホソハリカメシ科	クモハリカメシ					○		
87			ホソハリカメシ				○			
88		ハリカメシ科	ホオス ¹ キカメシ					○		
89			ホソハリカメシ		○	○	○	○		
90			ハリカメシ	○				○		
91		ヒメハリカメシ科	スカシヒメハリカメシ			○		○		
92			アカヒメハリカメシ		○	○				
93			フ ¹ チヒゲ ¹ ヒメハリカメシ		○			○		
94		イトカメシ科	イトカメシ				○			
95		ナカ ¹ カメシ科	チヒ ¹ ヒメヒラナカ ¹ カメシ				○			
96			ヒメオオメナカ ¹ カメシ			○	○			
97			サヒ ¹ ヒョウタンナカ ¹ カメシ				○			
98			オオモンシロナカ ¹ カメシ	○						
99			ヒメナカ ¹ カメシ		○	○	○	○		
100			ヒゲ ¹ ナカ ¹ カメシ				○	○		
101			ヨツボ ¹ シヒョウタンナカ ¹ カメシ				○	○		
102			オオメナカ ¹ カメシ				○	○		
103			イチゴ ¹ チヒ ¹ ナカ ¹ カメシ					○		
104			ツノカメシ科	エキモンキツノカメシ	○	○	○	○		
105			ツチカメシ科	ミツボ ¹ ツチカメシ			○			
106				チヒ ¹ ツヤツチカメシ			○			
107				ツチカメシ		○				
108				マルツチカメシ		○				
109		カメシ科	ウス ¹ ラカメシ				○			
110			フ ¹ チヒゲ ¹ カメシ					○		
111			キマダ ¹ ラカメシ			○		○		
112			ヒメナカ ¹ メ			○				
113			シラホシカメシ					○		
114			ツギアオカメシ					○		
115			エヒ ¹ イロカメシ			○	○			
116			クサキ ¹ カメシ		○	○	○			
117			ミナミアカメシ					○		
118			チャバ ¹ ネアオカメシ		○	○	○	○		
119			キンカメシ科	アカスジ ¹ キンカメシ				○		
120			アメンボ ¹ 科	アメンボ ¹		○	○	○		
121				ヒメアメンボ ¹		○	○			
122			キン ¹ ラミ科	ムウボ ¹ キン ¹ ラミ				○		
123		サツマキン ¹ ラミ			○					
124		アミカゲ ¹ ロウ目(脈翅目)	クサカゲ ¹ ロウ科	ヨツボ ¹ シクサカゲ ¹ ロウ				○		
125				ヤマトクサカゲ ¹ ロウ	○	○	○	○		
126				カオマダ ¹ ラクサカゲ ¹ ロウ	○					
127			ヒメカゲ ¹ ロウ科	ミト ¹ リヒメカゲ ¹ ロウ	○					
128		チョウ目(鱗翅目)	セリ ¹ チョウ科	イチモンジ ¹ セリ			○	○		
129				チャバ ¹ ネセリ			○			
130			テング ¹ チョウ科	テング ¹ チョウ本土亜種		○				
131			シジ ¹ チョウ科	ルリシジ ¹ ミ			○			
132				ツバ ¹ メシジ ¹ ミ		○	○	○		
133				ウラナシジ ¹ ミ					○	
134				ヘ ¹ ニシジ ¹ ミ	○	○	○	○	○	
135				ヤマトシジ ¹ ミ本土亜種		○	○	○	○	
136			タテ ¹ チョウ科	ツマゲ ¹ ロヒョウモン		○	○	○	○	
137				ヒメアガテハ				○	○	
138				アカボ ¹ シコ ¹ マダ ¹ ラ		○				
139				ゴ ¹ マダ ¹ ラチョウ	○			○		
140				ホシミスジ ¹ 本州中部以北亜種		○				
141			コムシジ ¹				○			
142			アゲ ¹ ハチョウ科	アオスジ ¹ アゲ ¹ ハ		○	○	○	○	
143				ナミアゲ ¹ ハ		○	○	○	○	
144			シロチョウ科	モンキチョウ	○	○	○	○	○	
145				キタキチョウ		○	○	○	○	
146				モンシロチョウ		○	○	○	○	
147			シ ¹ ヤノメチョウ科	ヒカゲ ¹ チョウ			○	○		
148				シ ¹ ヤノメチョウ				○		
149				ヒメシ ¹ ヤノメ		○				
150				サトキマダ ¹ ラヒカゲ ¹				○		
151				ヒメウラナシ ¹ ヤノメ		○		○		
152			ツトガ ¹ 科	ツトガ ¹				○		
153				コフ ¹ ノメイガ ¹					○	
154				クワノメイガ ¹					○	
155				シロマダ ¹ ラノメイガ ¹			○			
156				マエアサカシノメイガ ¹		○			○	
157				シバ ¹ ツトガ ¹			○	○		
158				シロオヒ ¹ ノメイガ ¹					○	
159				メイガ ¹ 科	アカマダ ¹ ラメイガ ¹		○	○		
-					メイガ ¹ 科		○			
160				シヤクガ ¹ 科	マエキオエダ ¹ シヤク			○		

表 9.4-14(3) 昆虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況				
				平成 25 年度	平成 26 年度			
				秋季	春季	初夏季	夏季	秋季
161	チョウ目 (鱗翅目)	ヤマユカ科	オオミスアオ		○			
162		スズメバチ科	オオスサシバ				○	
163			ホシホシジャク				○	
164		カノコ科	カノコ			○		
165		トクカ科	キアソトクカ		○			
166		ヤカ科	タマヤカ					○
167			ニレキリカ			○		○
168			ミツホシキリカ	○				
169			ツメクサカ				○	
170			ソウスケロアツハ			○		
171			ウンモンチハ				○	
172			オオウンモンチハ		○			
173			オオアカマエツハ		○	○		
174		スズキリヨトウ				○		
175		ハエ目 (双翅目)	ガガンボ科	ホリカリシビガガンボ			○	
176				キイロホリガガンボ	○	○	○	
177			ユスリカ科	ユスリカ科	○			
178	ミスアブ科		ハラキミスアブ			○		
179	ムシキアブ科		アオメアブ			○		
180			ナミカリケムシ		○			
181	シオヤアブ				○	○		
182	ツリアブ科		コウヤツリアブ				○	
183			クロハネツリアブ			○		
184	ハナアブ科		クロヒラタアブ		○			
185			ホリヒラタアブ		○			
186			シマハナアブ		○			
187			ナミハナアブ		○			
188			ナミホシヒラタアブ		○			
189			アシブトハナアブ					○
190			ホシツヤヒラタアブ			○	○	○
191			シママヒラタアブ				○	
192			キアシママヒラタアブ					○
193			ホリヒメヒラタアブ			○	○	○
194	キタヒメヒラタアブ				○	○		
195	ショウジョウバエ科		キイロショウジョウバエ	○				
-			<i>Drosophila</i> 属	○				
196	ヘッコウバエ科		ヘッコウバエ	○				
197	ヤチバエ科		ヒゲナカヤチバエ				○	○
198	ツヤホソバエ科		ヒトツヤホソバエ			○		○
199	クロバエ科		ツマクロキンバエ	○	○	○	○	○
200	シマバエ科		ヤブクロシマバエ		○			
201	ムハエ科	ムハエ		○	○			
202	コウチュウ目 (鞘翅目)	オサムシ科	マルガタコミムシ			○		
203			<i>Bradyceilus</i> 属	○				
204			セアカヒラタコミムシ			○		
205			ケリスコモクムシ			○	○	○
206			ウスアガクロコモクムシ			○	○	
207			ココモクムシ				○	
208			コルリアトキリコミムシ	○			○	○
209			オオヒラタコミムシ	○				
210			マルガタツヤヒラタコミムシ			○		
211			トゲバコマダガムシ			○		
212		シデムシ科	オオヒラタシデムシ		○		○	
213		ハネカクシ科	クロストガリハネカクシ			○		
214			クロサビイロハネカクシ			○		
215			<i>Philonthus</i> 属				○	
216			コガネムシ科	アオトウコガネ				○
217			トウコガネ			○		
218			ヒメサクラコガネ			○		
219			ヒメコガネ				○	
220			チビサクラコガネ			○		
221			セマダラコガネ				○	
222			コアオハナムケリ		○	○	○	○
223			ナカチヤコガネ			○		
224			ビロウトコガネ				○	
225			ヒメビロウトコガネ		○			
226			マルガタビロウトコガネ			○		
227			ハラゲビロウトコガネ		○			
228			ツヤエンマコガネ		○			
229			マメコガネ			○	○	
230			シロテンハナムケリ			○	○	
231			ホリケシマダラコガネ				○	
232		ヒラタドムシ科	ヒラタドムシ			○		
233		タマムシ科	ヒシモンナガタマムシ					○
234			ウケイナガタマムシ			○		
235	ヒメヒラタタマムシ					○		
236	クロケシタマムシ						○	
237	タマムシ						○	
238	コメツキムシ科	サビキコリ		○	○	○	○	
239		ホソサビキコリ		○				
240		コガネヒメサビキコリ		○	○			

表 9.4-14(4) 昆虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況					
				平成 25 年度	平成 26 年度				
				秋季	春季	初夏季	夏季	秋季	
241	コウチュウ目(鞘翅目)	コムツキムシ科	アガシハナコムツキ		○				
242			クワツヤハダコムツキ			○			
243			クワツヤクコムツキ				○		
244			クシコムツキ		○		○		
245			クロクシコムツキ			○			
246			カントウツヤミズギコムツキ			○	○		
247			コハナコムツキ			○	○		
248			シヨウカイモトキ科	ホッカインヨウカイ		○			
249				オカハセホシヨウカイ		○			
250			ヘニボタル科	Plateros 属			○		
251		カワオブシムシ科	ヒメマルカワオブシムシ		○				
252		シヨウカイモトキ科	ヒロホシシヨウカイモトキ			○			
253			ギアホシシヨウカイモトキ			○	○	○	
254		テントウムシ科	ムーアシロホシテントウ					○	
255			ヒメアカホシテントウ				○		
256			ナナホシテントウ			○		○	
257			マカダテテントウ				○		○
258			フタモンクロテントウ			○	○	○	
259			ナミテントウ		○	○	○	○	○
260			キイロテントウ		○	○	○	○	○
261			ダンダラテントウ						○
262			ヨツボシテントウ			○			○
263			ヒメカメノコテントウ			○		○	○
264			クモカダテントウ		○				○
265			ヘタリテントウ					○	
266	クロハリヒメテントウ						○		
267	コクロヒメテントウ					○	○		
268	クワツヤテントウ						○	○	
269	シロホシテントウ			○					
270	テントウムシダマシ科		ヨツボシテントウダマシ				○		
271	コムツキモトキ科		キムネヒコムツキモトキ					○	
272	ケシキスイ科	クロハナケシキスイ		○		○	○		
273		クリヤケシキスイ		○					
274		マルキマダラケシキスイ				○			
275	ホリヒラカムシ科	ミツモンセマルヒラカムシ			○				
276	アリモトキ科	ホリクビアリモトキ		○		○	○		
277		ヨツボシホリアリモトキ				○			
278	ハナハシ科	Mordellistena 属			○				
279	カミキリモトキ科	アオクワカミキリモトキ		○					
280		キハネカミキリモトキ				○			
281	ゴミムシダマシ科	クチキムシ					○		
282		トビイロクチキムシ				○			
283		アカハネツツヤクチキムシ				○			
284		ハムシダマシ					○		
285		ヒゲアトハムシダマシ				○			
286	カミキリムシ科	ヒメスキカミキリ		○					
287		ニイジマヒカミキリ		○	○				
288		キタスイカミキリ		○					
289		ヒメクロツツヤカミキリ		○					
290	ハムシ科	アカハナカミナリハムシ		○		○			
291		ツツヤハムシ		○					
292		ヒメテントウノミハムシ			○	○			
293		ウリハムシモトキ					○		
294		ウリハムシ					○		
295		クロウリハムシ			○		○		
296		チキイロサルハムシ			○				
297		アオハネサルハムシ				○			
298		シリアカマダツウハムシ		○					
299		アスギマダツウハムシ					○		
300		ハラクワロヒメハムシ			○				
301		ヒメトウカネトヒハムシ				○			
302		ヒサコトヒハムシ					○		
303		ヨモギハムシ					○		
304		イモサルハムシ				○			
305		ハラルツツヤハムシ			○				
306		クワハムシ			○				
307		コカダリハムシ			○				
308		キハラルクビホソハムシ					○		
309		クロホシトヒハムシ				○			
310		オオハコトヒハムシ					○		
311		ホタルハムシ					○		
312		ルリマルノミハムシ		○			○		
313		フタクサハムシ					○		
314		マルキハネサルハムシ					○		
315		アトホシハムシ					○		
316		タマアジトヒハムシ					○		
317		ニレハムシ				○	○		
318		エノキハムシ				○			
319		トウカネサルハムシ			○				
320		ムチキリハムシ			○				

表 9.4-14(5) 昆虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況						
				平成 25 年度	平成 26 年度					
				秋季	春季	初夏季	夏季	秋季		
321	コウチュウ目(鞘翅目)	ヒケナガゾウムシ科	アカアシケナガゾウムシ	○						
322		ホソクチゾウムシ科	ヒレホソクチゾウムシ		○					
323		ゾウムシ科	ヤノキゾウムシ			○				
324			ケフカチゾウムシ			○				
325			チビヒョウタンゾウムシ			○				
326			ヒレクチゾウムシ	○						
327			アカアシノゾウムシ	○	○					
328			スカリゾウムシ		○	○	○	○		
329			サビヒョウタンゾウムシ			○	○	○		
330			ケチビコフキゾウムシ			○				
331			ハチ目(膜翅目)	ミツハチ科	ルリチュウレンジ		○			
332				ハチ科	ニホンカアヲハチ					○
333	シマクロハチ				○					
334	アシアトコハチ科	ハエヤトリアシアトコハチ					○			
335	アリ科	クロオアリ				○	○	○	○	
336		ハリアトシリアゲアリ					○	○	○	
337		キイロシリアゲアリ		○	○	○	○	○	○	
338		クロヤマアリ		○	○	○	○	○	○	
339		トビイロケアリ		○	○	○	○	○	○	
340		クロクサアリ				○				
341		アメロアリ			○		○			
342		アミアリ			○	○	○	○	○	
343		トフシアリ							○	
344		ムネホソアリ		○						
345		トビイロシアリ			○	○	○	○	○	
346		トコハチ科		キオビチビトコハチ			○	○		
347		スズメバチ科		セクロアシナガバチ				○		
348				キホシアシナガバチ				○		
349	コアシナガバチ					○				
350	コカクダスズメバチ				○		○			
351	ヒメスズメバチ					○				
352	ヘッコウハチ科	キオビヘッコウ				○				
353	ツチバチ科	ヒメハナカツチバチ		○		○	○	○		
354		キンケハナカツチバチ					○	○		
355		シロオビハナカツチバチ			○					
356		キオビツチバチ				○	○			
357	フシガハチ科	ヒメツチスガリ				○				
358		ナミツチスガリ			○					
359		マルモンツチスガリ				○	○			
360	アナバチ科	サトシガハチ				○	○			
361		アメリカンガハチ				○				
362		クロアナバチ					○			
363	ミツバチ科	ニホンミツバチ						○		
364		セイヨウミツバチ			○	○	○	○		
365		キオビツチハナバチ			○					
366		ニッポシナガハナバチ			○					
367		ダクイヨウキマダラハナバチ			○					
368		ナミドリモンハナバチ				○				
369		キムネクマバチ		○						
370	コハナバチ科	アカガネコハナバチ		○	○	○	○			
371		アオシハナバチ				○				
372	ハキリハチ科	ヒメハキリハチ				○				
373		ツルガハキリハチ				○				
374	ヒメバチ科	キオビコシフヒメバチ		○						
計	11 目	114 科	374 種	46 種	138 種	146 種	164 種	114 種		

b. 注目される種

確認された昆虫類のうち、文化財保護法に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種、「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 昆虫類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種及び「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都に該当する掲載種）を注目される昆虫類として抽出した結果、表 9.4-15 に示す 5 種が該当した。

注目される昆虫類の生態及び確認状況は、表 9.4-16 に示すとおりである。

表 9.4-15 注目される昆虫類

No	目名	科名	種名	選定基準 ^{注)}			
				①	②	③	④
1	トンボ目	トンボ科	チョウトンボ				VU
2	ハッタ目	ハッタ科	ショウヨウハッタモトギ				VU
3	チョウ目	ヤマユカ科	オオミスアオ				VU
4	ハチ目	ヘッコウハチ科	キオヒヘッコウ				DD
5		ミツハチ科	ナミルモンハチ			DD	
計	4 目	5 科	5 種	0 種	0 種	1 種	4 種

注) 選定基準

- ①文化財保護法(昭和 25 年法律第 214 号)、東京都文化財保護条例(昭和 51 年東京都条例第 25 号)、調布市文化財保護条例(平成 18 年調布市条例第 46 号)に基づく天然記念物
- ②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成 4 年法律第 75 号)に基づく国内希少野生動植物種
- ③「レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 昆虫類)」(平成 24 年 8 月 環境省)の記載種
DD: 情報不足
- ④「レッドデータブック東京 2013(本土部)」(平成 25 年 3 月 東京都)の北多摩に該当する掲載種
VU: 絶滅危惧 II 類 DD: 情報不足

表 9.4-16 注目される昆虫類の生態及び確認状況

<p>【種名】：チョウトンボ 【分布】：本州、四国、九州 【形態】：体は黒色で大きな翅をもつ。翅の黒色部の表側は雄では紫藍色、雌では金緑色に輝くが、雌でも紫藍色となる個体が時折ある。初夏から夏に見られる。 【確認状況】：初夏季及び夏季に計画地周辺の公園内の池で個体が確認された。</p>	
<p>【種名】：ショウリョウバッタモドキ 【分布】：本州、四国、九州、対馬、南西諸島 【形態】：黄緑色や淡緑色の個体が多いが褐色型も見られる。側面には触角先端から翅端まで濃色帯が通常である。高茎イネ科草地に生息し、主にチガヤの葉を摂食する。 【確認状況】：夏季に計画地周辺のチガヤが生育する明るい草地で個体が確認された。</p>	
<p>【種名】：オオミズアオ 【分布】：北海道、本州、四国、九州、対馬ヨコフカニグモ 【形態】：翅の地色は青白色。夏型の個体は黄色味を帯びるものがある。年2化、5月と7～8月に出現する。幼虫の食餌植物として、サクラ、ウメ、ナシ、リンゴ、コナラ、カエデ類などが記録されている。 【確認状況】：春季に計画地周辺の公園内北側の植栽で個体が確認された。</p>	
<p>【種名】：キオビベッコウ 【分布】：本州、四国、九州、対馬、南西諸島 【形態】：雌は黒色で頭部、胸部背面、触角及び足の大部分が黄褐色。腹部は第2背板基部に黄色帯があり、腹端部は黄褐色。翅は黄褐色で外縁は黒褐色。雄は黒色で全体に鮮黄色の斑紋がある。コガネグモなどの大型のクモを狩り、幼虫の食餌とする。 【確認状況】：計画地周辺の草地で飛翔する個体が確認された。</p>	
<p>【種名】：ナミルリモンハナバチ 【分布】：本州、四国、九州 【形態】：体は黒色で、翅は基部を除き強く褐色に曇る。体には青緑色のよく分枝した臥毛からなる斑紋ないし横帯を有するが、腹部の横帯(中央部で切断される)は毛がうすく、輪郭がぼやけた感じである。 【確認状況】：計画地周辺の植栽されたアベリアに飛来した個体が確認された。</p>	

出典：「新訂原色昆虫大圖鑑第Ⅲ巻」

注)分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013 (本土部)」(平成 25 年 3 月 東京都)による。

(カ) クモ類

a. 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.4-17 に示すとおり 1 目 12 科 37 種のクモ類が確認された。

確認された昆虫類は、造網性種のウロコアシナガグモ、コガネグモダマシ、ドヨウオニグモ、コクサグモ等、徘徊性種のササグモ、ワカバグモ、マミジロハエトリ等が共に確認された。また、生息環境別では、水辺の高茎草地を好むウロコアシナガグモ、ドヨウオニグモ、草地や公園に生息するコガネグモダマシ、キンイロエビグモ、ワカバグモ、マミジロハエトリ等が確認された。

表 9.4-17 クモ類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況				
				平成 25 年度	平成 26 年度			
				秋季	春季	初夏	夏季	秋季
1	クモ目	ジグモ科	ジグモ				○	
2		アシナガグモ科	トガリアシナガグモ		○			
3			ウロコアシナガグモ	○		○		
-			<i>Tetragnatha</i> 属		○			○
4		コガネグモ科	オニグモ			○		○
5			ナガコガネグモ				○	○
6			コガネグモダマシ	○			○	
-			<i>Larinia</i> 属				○	○
7			ドヨウオニグモ	○		○	○	
8			コゲチャオニグモ				○	
9			サツマノミダマシ			○		
-			<i>Neoscona</i> 属			○		
-			コガネグモ科	○				
10			コモリグモ科	ハラクロコモリグモ		○		○
11		カラコモリグモ			○	○		
-		<i>Pardosa</i> 属				○		
-		コモリグモ科	○					
12		ササグモ科	クリチャササグモ		○			
13			ササグモ	○	○	○	○	○
-			<i>Oxyopes</i> 属		○		○	○
14		タナグモ科	コクサグモ	○				
-		<i>Allagelena</i> 属				○		
15		ウシオグモ科	クロガケジグモ			○		
16		フクログモ科	マダラフクログモ			○		
-			<i>Clubiona</i> 属			○		
17		ワシグモ科	メキリグモ		○		○	
-			<i>Gnaphosa</i> 属		○			
18			ヤマトフトバワシグモ			○		
19		エビグモ科	キンイロエビグモ	○				
-			<i>Philodromus</i> 属				○	
20			ヤドカリグモ		○			
-		<i>Thanatus</i> 属				○		
21		カニグモ科	ハナグモ			○	○	
22			ワカバグモ	○			○	○
23			アズチグモ			○		
24			チュウカカニグモ			○		
25			ヨコフカニグモ				○	
-	<i>Xysticus</i> 属			○	○	○	○	
-	カニグモ科	○						
26	ハエトリグモ科	ネコハエトリ		○				
27		マミジロハエトリ	○	○		○	○	
-		<i>Evarcha</i> 属				○	○	
28		チクニハエトリ			○			
29		オスクロハエトリ			○	○		
30		ヤハズハエトリ		○		○	○	
-		<i>Mendoza</i> 属		○		○	○	
31		ヤガタアリグモ					○	
32		アリグモ		○				
33		クワガタアリグモ			○			
-		<i>Myrmarachne</i> 属		○			○	
34		<i>Neon</i> 属			○			
35		イナヅマハエトリ		○				
36		<i>Rhene</i> 属	○					
37		シラホシコゲチャハエトリ				○		
-		ハエトリグモ科				○	○	
計	1 目	12 科	37 種	10 種	14 種	16 種	18 種	10 種

b. 注目される種

確認されたクモ類のうち、文化財保護法に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種、「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト その他無脊椎動物）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種及び「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）に該当する掲載種を注目されるクモ類として抽出した結果、表 9.4-18 に示す 1 種が該当した。

注目されるクモ類の生態及び確認状況は、表 9.4-19 に示すとおりである。

表 9.4-18 注目されるクモ類

No	目名	科名	種名	選定基準 ^{注)}			
				①	②	③	④
1	クモ目	カニグモ科	ヨコフカニグモ				DD
計	1 目	1 科	1 種	0 種	0 種	0 種	1 種

注) 選定基準

- ①文化財保護法(昭和 25 年法律第 214 号)、東京都文化財保護条例(昭和 51 年東京都条例第 25 号)、調布市文化財保護条例(平成 18 年調布市条例第 46 号)に基づく天然記念物
 - ②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成 4 年法律第 75 号)に基づく国内希少野生動植物種
 - ③「レッドリスト(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト その他無脊椎動物)」(平成 24 年 8 月 環境省)の記載種
 - ④「レッドデータブック東京 2013(本土部)」(平成 25 年 3 月 東京都)の北多摩に該当する掲載種
- DD:情報不足

表 9.4-19 注目されるクモ類の生態及び確認状況

<p>【種名】:ヨコフカニグモ</p> <p>【分布】:北海道、本州、九州</p> <p>【形態】:雌の背甲は淡褐色で両側に黒褐色の縦条がある。腹部は褐色の地に白い線条や黒斑がある。雄は初期には雌と同様の色彩斑紋をしているが、時間とともに黒くなる。狩猟性で網を張らない。</p> <p>【確認状況】:夏季に計画地周辺の公園内の芝地及び低茎草地で確認された。</p>	
--	---

注)分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013(本土部)」(平成 25 年 3 月 東京都)による。

2) 生育・生息環境

ア. 地形等の状況

地形の状況は、「9.1 大気等 9.1.1 現況調査 (4)調査結果 3)地形及び地物の状況」(p. 61 参照)に示したとおりである。計画地は、武蔵野台地の南西部の多摩川の左岸に沿って青梅市から立川、府中、調布市にかけて形成された立川段丘上にある盛土地であり、平坦化された人為的な改変を受けた地形となっている。

地質の状況は、「9.2 生物の生育・生息基盤 9.3.1 現況調査 (4)調査結果 2)地形・地質の状況」(p. 100 参照)に示したとおりである。計画地及びその周辺は、上総層群を基盤として、その上位に立川礫層、表層付近には関東ローム層が堆積している。

イ. 植生等の状況

植生等の状況は、「9.2 生物の生育・生息基盤 9.2.1 現況調査 (4)調査結果 5)植生の状況」(p. 102 参照)に示したとおりである。計画地及びその周辺は、「市街地」の占める

割合が最も多いが、計画地北側の市民西町サッカー場、朝日サッカー場、武蔵野の森公園、野川公園等には芝地がまとまって分布するほか、野川公園等には「残存・植栽樹群をもった公園、墓地等」が分布している。また野川公園、武蔵野の森公園及び東京スタジアム（味の素スタジアム）にかけては、市街地の中で連続性のある緑地が形成されている。また、現地調査による計画地及び会場エリア内の現存植生の状況は、図 9.2-5 (p. 104 参照) に示すとおりである。武蔵野の森総合スポーツ施設・東京スタジアム会場エリア内の現存植生は、主に東側及び西側に植栽樹林群（落葉広葉）、北側等にシバ群落がまとまって分布する以外は、概ね人工構造物で被覆されている。計画地内は、現地調査時点で工事に着手しているため、大部分は人工裸地となっており、計画地内の植生はソメイヨシノの植栽樹林群（落葉広葉）が分布するのみとなっている。なお、工事着手前には、一般国道 20 号（甲州街道）沿いの計画地内にイチョウの植栽樹林群が存在していたが、将来的には本施設の緑化樹として活用することを念頭に、イチョウの既存樹木を場外で仮養生している。

ウ. 大気環境

大気環境の状況は、「9.1 大気等 9.1.1 現況調査 (4) 調査結果 1) 大気等の状況」(p. 49 参照) に示したとおりである。

気象の状況は、「9.2 生物の生育・生息基盤 9.2.1 現況調査 (4) 調査結果 6) 気象の状況」(p. 102 参照) に示したとおりである。計画地周辺の府中アメダスにおける年間降水量及び年平均気温の平年値（昭和 56 年～平成 22 年）は、1,529.7mm、14.9℃である。

エ. 地域社会とのつながり

計画地周辺には、武蔵野の森公園等の都市部に整備された緑地が広がっており、散歩、ジョギング、サイクリングなど多数の市民利用があり、花見など四季折々の植物や動物を身近に感じることでできる場となっている。

3) 生態系の状況

動植物の現地調査結果を基に、計画地及びその周辺における生態系の機能や構成要素、食物連鎖による生態系構成要素は、表 9.4-20 に示すとおりである。

計画地及びその周辺は、生産者である植生の状況から生態系の機能として、樹林環境、草地環境、市街地等の 3 区分に分類される。これらの環境区分で見られる陸上植物、陸上動物について、食物連鎖による生物の相互の関係を整理し、図 9.4-2 に整理した。

生産者としては、樹林環境ではスダジイ、マテバシイ、クスノキ、ケヤキ、クロマツ、イチョウ等の植栽樹林、草地環境ではヨモギ、メドハギ、ヨシ、オギ、ヒメガマ、オオバコ、チガヤ等の草本群落、市街地等ではイチョウ、ソメイヨシノ等があげられる。

生産者である植物の葉や茎、果実、種子等を採食する下位消費者としては、バッタ目、コウチュウ目、ハエ目、チョウ目等の昆虫類、キジバト等の植食性鳥類があげられる。

下位消費者である昆虫類等を捕食する中位消費者としては、アズマモグラ、ヒナコウモリ類の哺乳類、コゲラ、オナガ、シジュウカラ、メジロ、ヒヨドリ、ヒバリ、ムクドリ、ツバメ等の鳥類があげられる。

下位から中位消費者を捕食する上位消費者としては、小型哺乳類や昆虫類等を捕食するモズ等の鳥類、雑食性のハシブトガラス等があげられる。

食物連鎖の最も上位に位置する最上位消費者としては、行動圏が広く、主にキジバト、ヒヨドリ等の小型～中型鳥類を捕食するオオタカ、小型鳥類や昆虫類を捕食するチョウゲンボウの猛禽類があげられる。

表 9.4-20 環境区分別に見る生態系の状況

環境区分		樹林環境	草地環境	市街地等
共通する環境要素		<p>計画地及びその周辺は、立川段丘に位置しており、東側を流れる野川の対岸は武蔵野台地となる。武蔵野台地側では野川の河岸の一部に斜面や崖地が見られるが、計画地周辺は平坦地であり、標高は約 40m である。</p> <p>表層土壌は、表層に関東ローム層、下層には立川礫層が堆積しているが、計画地及びその周辺は東京スタジアム（味の素スタジアム）等の人工構造物としての土地利用が大部分を占める。</p>		
環境区分別の状況		<p>樹林環境は、計画地内では北側に植栽されたソメイヨシノが該当する。計画地周辺では、計画地北側の武蔵野の森公園や野川公園、西競技場の西側の緑地や道の路街路樹が該当する。</p> <p>主な植生は、武蔵野の森公園内や道路脇にソメイヨシノが広く分布し、武蔵野の森公園等では、スダジイ、マテバシイ、クスノキ、ケヤキ、クロマツ、イチョウ等の植栽樹林群が分布する。</p> <p>主な動物相は樹林環境に依存するコゲラ、シジュウカラ等の鳥類、コウチュウ目、チョウ目等の昆虫類、アズマモグラ等の小型哺乳類が生息する。</p>	<p>草地環境は、計画地に分布していない。計画地周辺では、計画地北側に位置する武蔵野の森公園及び東側に位置する野球場にシバ草が存在する。また、武蔵野の森公園内の修景池の周辺には、ヨシ群落やヒメガマ群落の水辺の植生が存在している。</p> <p>主な植生は、シバ、ヨモギ、ヨシ、オギ、チガヤメ等の草本のほか、オカメザサ等の低木が見られる。</p> <p>主な動物相は、草地環境に依存するメジロ等の鳥類やオンブバッタ等の昆虫類が見られるほか、修景池の周辺ではカイツブリ、バン等の水鳥やチョウトンボ等の昆虫類が生息する。</p>	<p>計画地及びその周辺は、人工裸地は、公園等を除くと主に住宅、官公庁施設、厚生医療施設等からなる市街地が形成されている。</p> <p>市街地は主に人工構造物で占められているが、道路沿いの街路樹や住宅の庭木等の植生が見られる。</p> <p>主な動物相は、ヒナコウモリ科のねぐら利用、ヒメアマツバメの営巣利用、チョウ類等の昆虫類やハシブトガラス、スズメ等の鳥類の利用が見られる。</p>
生態系構成要素	最上位消費者	鳥 類：オオタカ	鳥 類：オオタカ チョウゲンボウ	鳥 類：チョウゲンボウ
	上位消費者	鳥 類：モズ	鳥 類：モズ、ハシブトガラス	鳥 類：ハシブトガラス
	中位消費者	哺乳類：アズマモグラ、ヒナコウモリ科 鳥 類：コゲラ、オナガ、シジュウカラ 等 クモ類：ジョロウグモ、コカニグモ 等	哺乳類：アズマモグラ、ヒナコウモリ科 鳥 類：メジロ、ヒヨドリ、ヒバリ、ムクドリ、ツバメ 等 クモ類：ネコハエトリ 等	哺乳類：ヒナコウモリ科 鳥 類：ヒメアマツバメ、ツバメ、スズメ 等 クモ類：キンイロエビグモ 等
	下位消費者	鳥 類：キジバト 等 昆虫類：モリチャバネゴキブリ、オオミズアオ、ハロルドヒメコクヌスト、トガリバアカネトラカミキリ 等	昆虫類：ツユムシ、オンブバッタ、キオビベッコウ、モンシロチョウ、ヤマトシジミ、ホソヒラタアブ 等	昆虫類：ツマグロオオヨコバエ、アオスジアゲハ 等
	生産者	植 物：スダジイ、マテバシイ、クスノキ、ケヤキ、クロマツ、イチョウ 等	植 物：ヨモギ、メドハギ、ヨシ、オギ、ヒメガマ、オオバコ、チガヤ 等	植 物：イチョウ、ソメイヨシノ 等

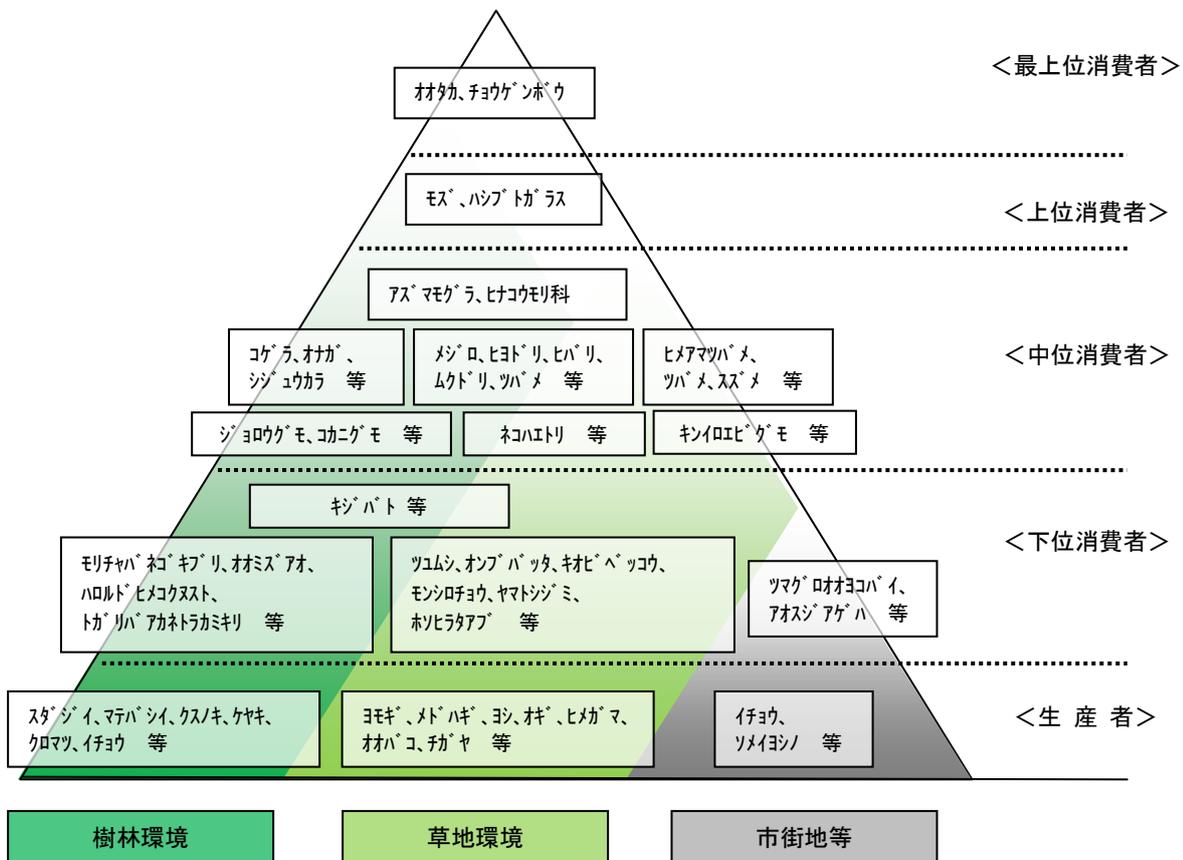


図 9.4-2 生態系の概念図

4) 土地利用の状況

土地利用の状況は、「9.1 大気等 9.1.1 現況調査 (4) 調査結果 4) 土地利用の状況」(P.64 参照) に示したとおりである。計画地及びその周辺の土地利用としては、主に独立住宅や集合住宅、官公庁施設、厚生医療施設等からなる市街地となっているが、計画地北側の武蔵野の森公園や野川公園等の公園、運動場等が分布している。また、計画地の大部分は未利用地となっている。

5) 法令等による基準等

生物・生態系に関する法令等については、表 9.4-21(1)及び(2)に示すとおりである。

表 9.4-21(1) 生物・生態系に関する法令等

法令・条例等	責務等
文化財保護法 (昭和 25 年法律第 214 号)	<p>(文化財の定義)</p> <p>第二条</p> <p>四 貝づか、古墳、都城跡、城跡、旧宅その他の遺跡で我が国にとって歴史上又は学術上価値の高いもの、庭園、橋梁、峡谷、海浜、山岳その他の名勝地で我が国にとって芸術上又は観賞上価値の高いもの並びに動物（生息地、繁殖地及び渡来地を含む。）、植物（自生地を含む。）及び地質鉱物（特異な自然の現象の生じている土地を含む。）で我が国にとって学術上価値の高いもの（以下「記念物」という。）</p> <p>(現状変更等の制限及び原状回復の命令)</p> <p>第二百二十五条 史跡名勝天然記念物に関しその現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、文化庁長官の許可を受けなければならない。ただし、現状変更については維持の措置又は非常災害のために必要な応急措置を執る場合、保存に影響を及ぼす行為については影響の軽微である場合は、この限りでない。</p>
絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 (平成 4 年法律第 75 号)	<p>(目的)</p> <p>第一条 この法律は、野生動植物が、生態系の重要な構成要素であるだけでなく、自然環境の重要な一部として人類の豊かな生活に欠かすことのできないものであることに鑑み、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存を図ることにより、生物の多様性を確保するとともに、良好な自然環境を保全し、もって現在及び将来の国民の健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的とする。</p> <p>(責務)</p> <p>第二条 国は、野生動植物の種（亜種又は変種がある種にあつては、その亜種又は変種とする。以下同じ。）が置かれている状況を常に把握し、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する科学的知見の充実を図るとともに、その種の保存のための総合的な施策を策定し、及び実施するものとする。</p> <p>2 地方公共団体は、その区域内の自然的社会的諸条件に応じて、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存のための施策を策定し、及び実施するよう努めるものとする。</p> <p>3 国民は、前二項の国及び地方公共団体が行う施策に協力する等絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に寄与するように努めなければならない。</p> <p>(捕獲等の禁止)</p> <p>第九条 国内希少野生動植物種及び緊急指定種（以下この節及び第五十四条第二項において「国内希少野生動植物種等」という。）の生きている個体は、捕獲、採取、殺傷又は損傷（以下「捕獲等」という。）をしてはならない。ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。</p> <p>一 次条第一項の許可を受けてその許可に係る捕獲等をする場合</p> <p>二 生計の維持のため特に必要があり、かつ、種の保存に支障を及ぼすおそれのない場合として環境省令で定める場合</p> <p>三 人の生命又は身体の保護その他の環境省令で定めるやむを得ない事由がある場合</p>
鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律 (平成 14 年法律第 88 号)	<p>(目的)</p> <p>第一条 この法律は、鳥獣の保護を図るための事業を実施するとともに、鳥獣による生活環境、農林水産業又は生態系に係る被害を防止し、併せて猟具の使用に係る危険を予防することにより、鳥獣の保護及び狩猟の適正化を図り、もって生物の多様性の確保、生活環境の保全及び農林水産業の健全な発展に寄与することを通じて、自然環境の恵沢を享受できる国民生活の確保及び地域社会の健全な発展に資することを目的とする。</p> <p>(鳥獣の捕獲等及び鳥類の卵の採取等の禁止)</p> <p>第八条 鳥獣及び鳥類の卵は、捕獲等又は採取等（採取又は損傷をいう。以下同じ。）をしてはならない。ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。</p> <p>一 次条第一項の許可を受けてその許可に係る捕獲等又は採取等をするとき。</p> <p>二 第十一条第一項の規定により狩猟鳥獣の捕獲等をするとき。</p> <p>三 第十三条第一項の規定により同項に規定する鳥獣又は鳥類の卵の捕獲等又は採取等をするとき。</p>

表 9.4-21(2) 生物・生態系に関する法令等

法令・条例等	責務等
特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律 (平成 16 年法律第 78 号)	<p>(目的)</p> <p>第一条 この法律は、特定外来生物の飼養、栽培、保管又は運搬（以下「飼養等」という。）、輸入その他の取扱いを規制するとともに、国等による特定外来生物の防除等の措置を講ずることにより、特定外来生物による生態系等に係る被害を防止し、もって生物の多様性の確保、人の生命及び身体の保護並びに農林水産業の健全な発展に寄与することを通じて、国民生活の安定向上に資することを目的とする。</p> <p>(飼養等の禁止)</p> <p>第四条 特定外来生物は、飼養等をしてはならない。ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。</p> <p>一 次条第一項の許可を受けてその許可に係る飼養等をする場合</p> <p>二 次章の規定による防除に係る捕獲等その他主務省令で定めるやむを得ない事由がある場合</p> <p>(放出等の禁止)</p> <p>第九条 飼養等、輸入又は譲渡し等に係る特定外来生物は、当該特定外来生物に係る特定飼養等施設の外で放出、植栽又はは種（以下「放出等」という。）をしてはならない。ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。</p> <p>一 次条第一項の許可を受けてその許可に係る放出等をする場合</p> <p>二 次章の規定による防除に係る放出等をする場合</p>

6) 東京都等の計画等の状況

生物・生態系に関する東京都等の計画等については、表 9.4-22 に示すとおりである。

表 9.4-22 生物・生態系に関する計画等

関係計画等	目標・施策等
第 11 次鳥獣保護事業計画 (平成 24 年 3 月 東京都)	<p>・人と野生鳥獣との共生の確保及び生物多様性の保全を基本として、野生鳥獣を適切に保護管理することにより、鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律（以下「法」という。）第 4 条第 1 項の目的を達成するため、国の定める「鳥獣の保護を図るための事業を実施するための基本的な指針」に基づき、東京都の地域事情を勘案して、「第 11 次鳥獣保護事業計画」を定める。</p> <p>第一 計画の期間</p> <p>第二 鳥獣保護区、特別保護地区及び休猟区に関する事項</p> <p>第三 鳥獣の人工増殖に関する事項</p> <p>第四 鳥獣の捕獲等及び鳥類の卵の採取等の許可に関する事項</p> <p>第五 特定猟具使用禁止区域、特定猟具使用制限区域及び猟区に関する事項</p> <p>第六 特定鳥獣保護管理計画に関する事項</p> <p>第七 鳥獣の生息状況の調査に関する事項</p> <p>第八 鳥獣保護事業の実施体制に関する事項</p> <p>第九 その他</p>
植栽時における在来種選定ガイドライン (平成 26 年 5 月 東京都)	<p>・東京都は、緑の「量」の確保に加え、生態系への配慮など緑の「質」を高める施策を進めており、その地域に自然に分布している植物（以下「在来種」という。）を増やすことで、在来の生きものの生息場所を拡大する取組を行っている。本ガイドラインは、都民や事業者が緑化をする際に参考となるものとして作成されている。</p>

9.4.2 予測

(1) 予測事項

予測事項は以下に示すとおりとした。

- 1) 陸上植物の植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度
- 2) 陸上動物の動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度
- 3) 生育・生息環境の変化の内容及びその程度
- 4) 生態系の変化の内容及びその程度

(2) 予測の対象時点

予測の対象時点は、2020年東京大会の実施に伴う建設工事等での改変や施設撤去後の現状回復等において、生物・生態系に変化が生じる又は生じていると思われる時点とし、大会開催前、大会開催中、大会開催後のそれぞれ代表的な時点又は期間のうち、大会開催後とした。

(3) 予測地域

予測地域は、計画地及びその周辺地域とした。

(4) 予測手法

予測手法は、2020年東京大会の実施計画を基に、生物・生態系の変化の程度を把握して予測する方法とした。

(5) 予測結果

1) 陸上植物の植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度

計画地においては、東京スタジアム（味の素スタジアム）駐車場として暫定利用されていた場所であり、大部分は人工裸地となっている。植物群落としては、計画地北側のソメイヨシノの植栽樹林群のみである。事業の実施にあたっては、ソメイヨシノの植栽樹林群は保存する計画としていることから、事業の実施による改変は生じない。また、現地調査の結果、計画地内に注目される種は生育していないため、事業による影響はないと予測する。

2) 陸上動物の動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度

計画地においては、東京スタジアム（味の素スタジアム）駐車場として暫定利用されていた場所であり、大部分は人工裸地となっている。動物の生息環境としては、計画地北側のソメイヨシノの植栽樹林群のみである。事業の実施にあたっては、ソメイヨシノの植栽樹林群は保存する計画としていることから、事業の実施による改変は生じない。また、現地調査の結果、計画地内に注目される種は生息していないため、事業による影響はないと予測する。

3) 生育・生息環境の変化の内容及びその程度

計画地においては、東京スタジアム（味の素スタジアム）駐車場として暫定利用されていた場所であり、大部分は人工裸地となっている。動植物の生育・生息環境としては、計画地北側のソメイヨシノの植栽樹林群のみである。事業の実施にあたっては、ソメイヨシノの植栽樹林群は保存する計画としていることから、事業の実施による改変は生じないため、動植物の生育・生息環境の変化の程度は小さいと予測する。

4) 生態系の変化の内容及びその程度

計画地においては、東京スタジアム（味の素スタジアム）駐車場として暫定利用されていた場所であり、大部分は人工裸地となっている。生態系を構成する陸上植物、陸上動物が相互に

関わる生育・生息環境としては、計画地北側のソメイヨシノの植栽樹林群のみである。事業の実施にあたっては、ソメイヨシノの植栽樹林群は保存する計画としていることから、事業の実施による改変は生じないため、生態系の変化の程度は小さいと予測する。

9.4.3 ミティゲーション

(1) 予測に反映した措置

- ・計画地北側のサクラ（ソメイヨシノ）は保存する計画としている。

(2) 予測に反映しなかった措置

- ・計画地南側の一般国道 20 号（甲州街道）沿いのイチョウの既存樹木を場外で仮養生を行ったうえで緑化樹として活用する。
- ・地上部のオープンスペースに高木及び地被類を植栽する。
- ・コンコース上の人工地盤植栽や屋上緑化等を行う計画としている。
- ・十分な植栽基盤（土壌）の必要な厚みを確保する。

9.4.4 評価

(1) 評価の指標

評価の指標は、生物・生態系の現況とした。

(2) 評価の結果

計画地においては、東京スタジアム（味の素スタジアム）駐車場として暫定利用されていた場所であり、大部分は人工裸地となっている。動植物の生育・生息環境となる樹林等の植物群落は計画地北側のソメイヨシノのみである。事業の実施にあたっては、ソメイヨシノの植栽樹林群は保存する計画としていることから、事業の実施による改変は生じない。

以上のことから、生物・生態系の現況は維持されるものと考えられることから、評価の指標は満足するものと考えられる。また、計画地南側の一般国道 20 号（甲州街道）沿いのイチョウの既存樹木を場外で仮養生を行ったうえで緑化樹として活用するほか、地上部のオープンスペース、コンコース上の人工地盤植栽や屋上緑化等を行う計画としている。計画地周辺には、武蔵野の森公園や隣接する西競技場の緑地に、動植物の生育・生息環境となる植栽樹林群（混交、落葉広葉、常緑広葉）の植栽が広く残存しており、計画地の緑地と一体となった生育・生息環境が形成されると考えられる。